

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 商学研究科 |
| 大項目 | 7 国際交流 (研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 |
| 小項目 | 7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院) |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|--------------------------|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 交換留学制度、EUIJの制度等を利用した積極的な海外での研究活動に対する支援。 | → 留学者数、EUIJプログラム参加者数の増加。 | B | B | B | B | B |
| 2. 海外での学会、ワークショップへの参加の支援。 | → 法人への働きかけを通じた支援制度の実現。 | B | C | C | C | C |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 目標1 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科委員会において在籍学生に対する交換留学やEUIJプログラムについてのアナウンスを依頼したり、募集要項を掲示したりして、情報提供に努めた。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人留学生の比率は50%前後であり、留学生受入れによる国際交流は進んでいるが、交換留学制度の利用者および留学を理由とする学籍異動学生はいなかった。EUIJプログラム参加者については、2011年度は受け入れ1名、本研究科生の登録0名、2012年度は受け入れ2名、本研究科生の登録0名、2013年度は受け入れ2名、本研究科生の登録0名であった。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 基本的にはこれまでと同様に積極的な情報提供に努める。この他には、交換留学やEUIJプログラムに参加する動機付けを行うことが考えられる。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| | | | |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 目標2 | C | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度に、海外で開催される学会・ワークショップ等での大学院生の発表支援策(経費補助)として、大学院海外助成金制度が創設された。この支援制度を在籍学生に公表、周知している。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011・2012年度において商学研究科の大学院生の申請はあったが、いずれも実際の利用に至っていない。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院海外研究助成金制度の拡充を働きかける。また、在籍学生に対して情報提供に努めるとともに、学生への動機づけも望まれるところである。さらに、博士課程後期課程の大学院生が研究レベルを自ら引き上げ、指導教員らとの国際共同研究報告を行うように方向付けることも必要であろう。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| | | | ☆ |
| 備考 | | | ☆ |

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【商学研究科】 | | | 単位 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 備考 | |
|-----------------------|--------------------|--------------|----|------|------|------|------|------|------|---------------------|--|
| 指標1 | 国際交流協定締結機関数 | | 機関 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | | |
| 指標2 | 国際交流協定締結国数 | | 国 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | | |
| 指標3 | 海外からの受け入れ学生数 | 国数 | 国 | — | — | — | — | — | — | 累計数 | |
| | | 外国人留学生 | 正規 | 人 | 28 | 27 | 28 | 26 | 21 | 21 | ・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む |
| | | | 交換 | 人 | 1 | 0 | 0 | — | — | — | ・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む |
| | | 外国人留学生在籍学生比率 | 正規 | % | 49.1 | 50.9 | 53.8 | 50.0 | 46.8 | 50.0 | 外国人留学生÷在籍学生数 |
| | | | 交換 | % | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| その他 (セミナー等による受け入れ) | 人 | — | — | — | — | — | — | — | | | |
| 指標4 | 海外への派遣学生数 | 国数 | 国 | — | — | — | — | — | — | 累計数 | |
| | | 人数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1学期以上を「長期」 |
| | | | 短期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1学期未満を「短期」 |
| | | 在籍学生比率 | 長期 | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 海外へ派遣した学生数÷在籍学生数 |
| | | | 短期 | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 指標5 | 海外からの受け入れ教員数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | 短期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標6 | 海外への派遣教員数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | 短期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標7 | 国連ボランティア(UNV)の参加者数 | | 人 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ・累計数 ・春・秋の合計 | |

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)